

How does altruism undermine growth in recipient countries?

春日秀文（関西大学） 森田雄一（名古屋市立大学）

要 旨

多くの実証研究において援助の成長効果は観察されていない。本稿ではその理由を説明するため、援助国が被援助国の社会厚生を考慮するという点で利他的であると仮定し、利他主義が援助の成長効果を弱めることを示す。ここでは所得分配を考慮した成長モデルを利用し、援助による公共投資と貧困家計への所得移転の効果を計測した。主要な結果として、1) 被援助国のガバナンスの欠如が著しい場合に援助の成長効果が小さくなる可能性があること、2) 被援助国はガバナンスの改善、税収の拡大、公共投資の努力を怠る傾向があること、3) 貧困と低成長が援助額を増加させるため、援助1ドルあたりの効果は高成長国で高い値となることが示された。これらの結果は、援助国の利他主義が援助の成長効果を低下させることを示唆する。また、援助の厚生効果は低所得かつ低成長の国で大きくなるため、望ましい援助政策としては低成長国での貧困層の直接支援が支持される。

キーワード：援助の有効性，ガバナンス，サマリア人のジレンマ，所得分配，成長

JEL classification: F35; O11; O40